

武井山道 (むいさんどう)

2011.12 現在

函館市浜町～函館市新二見町



武井山道

武井山道は、函館市浜町から新二見町に繋がる山道で、古くから道が存在していた。

松浦武四郎の「東西蝦夷山川地理取調」(安政6年=1859)に、ムイサキと書かれている岬が難所で通行が出来ず、山越えをしていた。

その後、渋江長伯が歩いた寛政11年(1799)には、恵山に向かう時は山を越え、帰りは時は浪が無かったので海岸線を歩いている。

現在は「町民憩いの丘」として武井の島展望台も設置されている。

ここからは武井の島を上から見下ろすように見える。また津軽海峡も一望でき風光明媚な場所である。

西側の入り口から車で入れるのだが、あまり通行する車が無いのか、草は道の両側から伸びて車に当たる。

車で登るなら東側の入り口から登れば舗装路を通過して上の駐車場まで行く事が出来る。

武井山道を歩いた人

寛政9年(1797)松前藩の高橋壮四郎が書いた『蝦夷巡覧筆記』(別名蝦夷地東西地理)には、武井山道を通っている

『蝦夷巡覧筆記』には「トイ(市町村合併で戸井の名前が消えて字以下が町名になった)運上屋有り、産物 布苔昆布 水ヨシ、當所海に、ムイノ嶋ト云岩場有り 此所岩出嶋有り 此岩出崎ニテ海ヨリ切立通行ナラズ、クマベツト云小川ヨリ山越道アリ 小山所々ニ有リ七八丁余(760~870m余)リ行キ、カマウタ(戸井町字鎌歌=現新二見町)江出ル」書いてある。

この文書から海岸線の岬は切り立った岩があって、通行が出来なかった事が分かる。クマベツトという小川は浜町内を流れる熊別川であろう。

寛政11年(1799)に箱館から恵山に向かった、渋江長伯の書いた『東遊奇勝』に依れば、往路については「ト卫村に至て午飯す、此所より又口蝦夷地なり、トヨイヘツを渉り、ムイトマリの山を越す、ムイノホリの出崎山高く海江出たり、・・・中略・・・山を下りカマウタ村之浜に至る」と書かれていて、山道を越えているのが分かる。

帰路については「シリキシナイ(尻岸内)にて昼休し、ムイトマリ(武井泊)に至り、潮干て浪も静かなれば山下を行、立岩大岩式つ相並て立つ、高三四丈程、又平石あり、巾巻丁程、長さ三四丁、石上海苔を生し、立石式三丈、四五丈のもの拾斗もあり、其間両相並て石間池をなすあり、池平石より高事五六尺、池の大拾四五間斗、石山洞をなすところあり、洞浅く見るに足らず、山岨(がけ)玉脂(あぶら)馬腦(瑪瑙)多し、山急岨高く、石多形状不一、甚佳境なり、只潮干の間にて其内にも波間を見て通る所もあれば、久しくなかつる事不能、此より秋負村出、ト卫村(戸井村=現函館市浜町)に着す。」と書いている。

干潮で波が静かな時は山道を歩かず、海岸線を歩いている。



武井の海岸線

渋江長伯が恵山の帰路に歩いたムイトマリの海岸線である。

勿論道は無く、岩に沿うように歩いたのだろう。

海岸を歩くのは一般的では無く、あくまで渋江長伯が興味を持って歩いたのだろう。

岬の右手の方には山道が見える。

武井ノ島にまつわる伝説



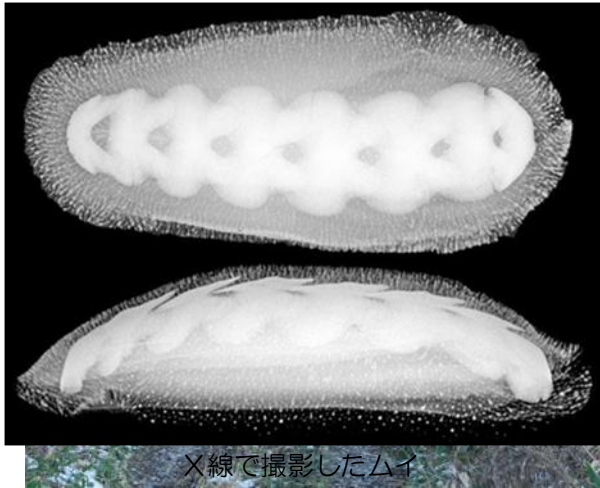
生きている時は岩に付いているムイ

伝説は何処にでもあるようで、ここ武井にも伝説がある。武井ノ島で戦いが有ったのだ。

対戦はムイ(アイヌ語で「オオバンヒザラガイ」とアワビの間で行われた。

昔この地域にはムイとアワビと一緒に住んでいたが、アワビが貝殻で武装していないムイの事を骨なしの意気地なしと軽蔑していた。(実はムイの貝殻は軟体部に隠れていて、生きている状態では見えないのである)

ムイは固い岩をかぶっていて、離しかけても顔も見せず、



×線で撮影したムイ

返事もしないアワビを頑固者と嫌っていた。

これが原因で戦いが起こったが決着が付かず、話し合いの結果仲直りし、武井ノ島を境に西はアワビの領地、東はムイの領地にした。これは今でも続いているそうだ。

同じ様な伝説が室蘭絵鞆岬(えともみさき)にある。絵鞆岬のあたりにポロチヌピラ、ポンチヌピラという崖があり、その沖にムイ島がある。

伝説とは「箕(み=大きなザル)であるムイカムイと、アワビの神であるチヌカムイが戦った。ムイカムイは砂をかき集めて砦を築いた。チヌカムイも対抗し

て砂をかき集めたが、貝の大きさが違うので負けて、泣きながら敗退した。その流した涙でポロチヌイエピラ、ポンチヌイエピラの崖が削られ、ムイカムイの砦がムイ島として残った」

ムイはムイ貝を指している。大きいものは体長 40cm にもなるそうだ。

全く離れた地にムイ貝とアワビが戦ったという話があり、ムイと言う島があるのも面白い。

こんな伝説を頭に描いて山道を歩いて見るのも良いかも知れない。

この伝説はここを旅した渋江長伯も書いており、「土人伝云、昔時石決明(アワビ)とムイ貝と相闘ふ、後此嶋境となす、ムイ貝形異にして味は石決明に似たり、嶋外石決明少くムイ多く、嶋内はムイなし、故附会之説をなすなり、」と書かれ古い時代から伝説として伝わっていた事が分かる。

恵山山道を歩く

国道 278 号線を恵山に向かって進むと、浜町に入るが左に「町民憩いの丘 武井の島展望台入口」の案内板がある。(写真①)

ここを入れて行く。車が 1 台通れる道が付いている。(写真②)

道の両側の草が道まではみだしていて車で行けば接触する。細い木の枝もあるので、車が勿体ない人は止めた方が良い。

折角の旧道なのだから歩いて行くのが良いだろう。

カーブを右に曲がる場所から海岸線が見られる。(写真③) ここから少し行くともう最高地点に到達する。駐車場やトイレ、東屋が完備されている。(写真④、⑤、⑥)

ここから遊歩道が武井の島展望台まであり、10 分も歩けば着く。武井の島を上から眺める風光明媚なスポットだ。ここに立ってムイとアワビの戦いの伝説を思い出して見よう。

ここから東への下りは舗装道路になっている。(写真⑦、⑧) 下って行けば右手にお墓がある。

さらに少し下れば前方には日浦岬の海岸線が見えてくる。(写真⑨)

道なりに舗装路を下れば国道 278 号線に出る。(写真⑩)



西側入り口（写真①）



車道だが草が道にはみだしている（写真②）



海岸線が見える（写真③）



ピークにある芝生の平坦地（写真④）



右が展望台、左は新二見へ行く（写真⑤）



トイレもある（写真⑥）



新二見町への道（写真⑦）



ここは道立自然公園（写真⑧）



日浦岬の海岸線（写真⑨）



新二見町側の案内板（写真⑩）